DēLonghi

Electric Oil-Filled Heater

デロンギ
オイルヒーター

型式番号
H770812EFSN

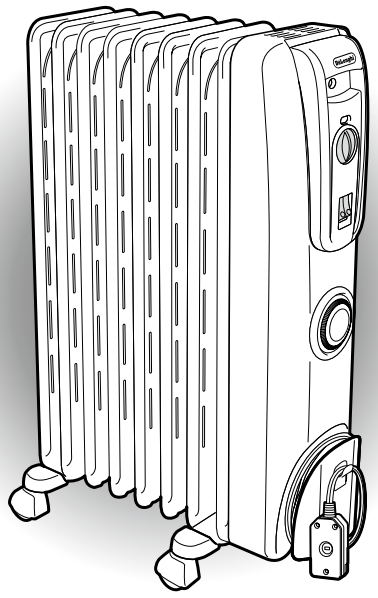
家庭用

取扱説明書

保証書付

このたびは、デロンギ製品をお買い上げいただき、
誠にありがとうございます。
本製品を正しく安全にお使いいただくために、ご使用前に
必ずこの取扱説明書を最後までお読みください。
お読みになった後は、保証書(裏表紙)とともに大切に保管
してください。

- 本書に記載の内容は、改善のため予告なく変更する場合があります。
- 本体の型式番号「H770812EFSN」の後に続くハイフンおよびアルファベットは、色番号を表すものです。



準備

お使いになる前にお読みください。

安全上のご注意 2
ご使用の前に 4
オイルヒーターについて 6
設置する 6
各部の名称とはたらき 8

基本操作

基本的な操作について説明しています。

手動運転のしかた 9
タイマー運転のしかた 10

故障かな?

修理をご依頼いただく前にお読みいただきたい内容を記載しています。

故障かな? 12

その他

本機のお手入れや保管のしかた、仕様などを記載しています。

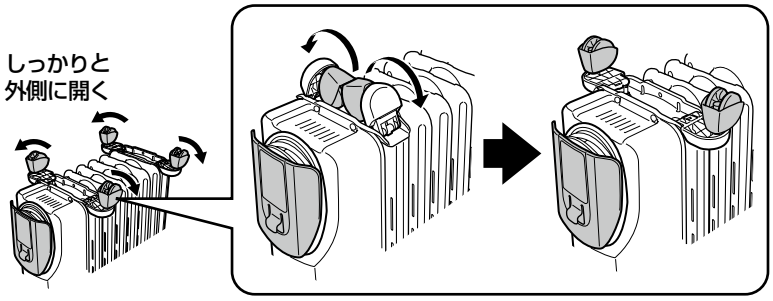
お手入れ／保管のしかた 14
仕　様 14
アフターサービス 15
保証書 ..... 裏表紙

■折りたたみ式キャスターの開き方

① 本機の底面が上になるように立てる

② すべてのキャスターをしっかりと外側に開く

③ 本機をゆっくり起こす



安全上のご注意　＜必ずお守りください＞

- ご使用の前に必ずこの「安全上のご注意」を最後までお読みください。
- ここに示した注意事項は製品を安全にお使いいただき、あなたや他の人への損害を未然に防止するものです。

警告　誤った取扱いをしたとき、死亡や重傷に結びつく可能性のあるもの	**注意**　誤った取扱いをしたとき、軽傷または家屋・家財などの損害に結びつく可能性のあるもの

お守りいただく内容の種類を次の絵表示で区分し、説明しています。（下記は絵表示の一例です。）

してはいけないことを示します。	必ずしなければいけないことを示します。

警告

定格15 A（100 V）のコンセントを本製品だけ単独で使用する
（火災の原因）
- ゆるんだコンセント、延長コード、テーブルタップなどは使用しない。

電源プラグは根元までしっかりと差し込む
（火災の原因）

電源プラグやコンセントのホコリは定期的に取り除く
（火災の原因）

異常・故障時には使用を中止する
（火災・感電の原因）

故障・異常時には直ちに使用を中止し、電源プラグをコンセントから抜き、販売店または当社テクニカルセンターに点検・修理を依頼してください。

お子様、自分で本機の温度を調節できない方には必ず付き添う
（火災・感電・やけど・けがの原因）
※ お子様、乳幼児、自分で本機の温度を調節できない方が近くにいるときは、必ず操作できる大人が付き添ってください。

カーテン、ふとんなど燃えやすいものや、コンセントのすぐ近くで使わない
（火災の原因）
- 電源を取るコンセントのすぐ下で使わない。

※ 6ページ「設置場所についてのご注意」参照

テーブルや机の下で使わない
※ 6ページ「設置場所についてのご注意」参照

スプレー缶などを本体の近くに置かない
（火災・けがの原因）

逆さ・横倒し・立てかけて使用しない
（火災の原因）

ぬれた手で電源プラグを抜き差ししない
（感電の原因）

電源プラグ・電源コードを破損させない
（火災・感電の原因）
- コードに重たいものを載せたり、本機の下敷きにしない。
- コードを無理に引っ張ったり、束ねたまま使用しない。
- 本体表面など高温部や他の熱機器に近づけない。

電源プラグ・コードに異常があるときは直ちに使用を中止し、販売店または当社テクニカルセンターに点検・修理を依頼してください。

電源コードをコードホルダーに巻き付けたまま使用しない
（火災の原因）
- 余った電源コードは残さずコードホルダーから解き、伸ばしたまま使用する。

運転中に電源プラグを抜き差ししない
（火災・感電の原因）

収納の際、電源コードをコードホルダーに強く巻かない
（火災の原因）
※ 14ページ「お手入れ／保管のしかた」参照

穴、すき間、開口部に指やピン・針金などを差し込まない。
（感電・けがの原因）
※ 特に小さなお子様にはご注意ください。

本製品を分解、改造しない
（火災・感電の原因）

本体や通気口をふとんや衣類などで覆わない
（火災の原因）
- 乾燥など他の用途に使用しない。

⚠ 注意

決められた設置方法に従う
(火災・感電・やけど・けがの原因)
- 壁や電源をとるコンセント、カーテンなどから20cm以上離す
- 人やペットおよび家具などからは1m以上離す
- 毛足の長いじゅうたんや凸凹のある床は避けて、平らな場所に置く

※ 6ページ「設置場所についてのご注意」参照

電源プラグを抜くときは、必ず電源プラグを持って抜く
(火災・感電の原因)
- 電源コードを無理に引っ張らない。

長期間使用しない場合は、必ず電源プラグを抜く
(火災の原因)

ヒーターの移動は、必ず本体が冷えてから行う
(やけど・けがの原因)
※ 6ページ「設置場所についてのご注意」参照

本体が転倒・落下したときは使用を中止する
(火災・感電・けがの原因)

転倒・落下時には直ちに使用を中止し、電源プラグをコンセントから抜き、販売店または当社テクニカルセンターに点検・修理を依頼してください。

水・湿気の多い場所で使用しない
(火災・感電の原因)
- 屋外や浴室など、水や湿気の多い場所で使わない。
- 硫化ガスが発生する場所(温泉地の脱衣所)などや塩害の恐れがある場所で使用しない。

本体に水などの液体をこぼさない
(火災・感電の原因)

本体を水に浸けたり、水洗いをしない
(火災・感電の原因)

運転中および停止後しばらくは、本体に触れない
(やけどの原因)

犬や猫などのペットの暖房に使用しない
(火災の原因)

知っておいていただきたいこと:ブレーカーについて

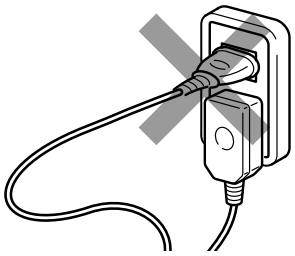
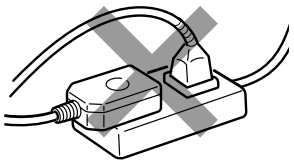
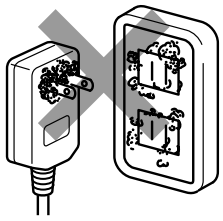
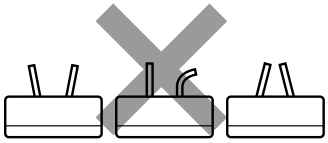
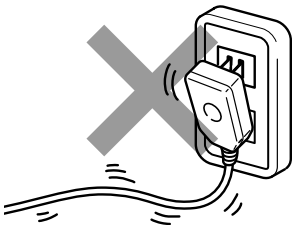
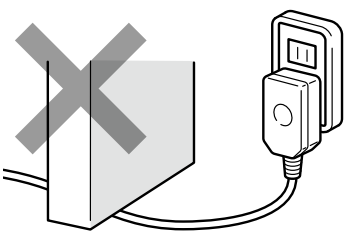
ブレーカー(分電盤内にある回路遮断器)は、その回路で電気を使い過ぎた時や何らかの原因で瞬時に大電流が流れた場合に自動的に電気を断ち、回路を守ります。**契約電力が不足している場合や、足りていても、その回路の容量を超えて複数の電気器具を使用すれば、ブレーカーが働き(=落ち)ます。**
※契約電力が不足している場合には、電力会社に増量を依頼してください。

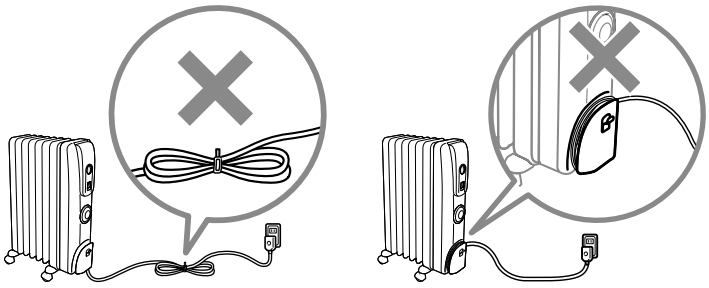
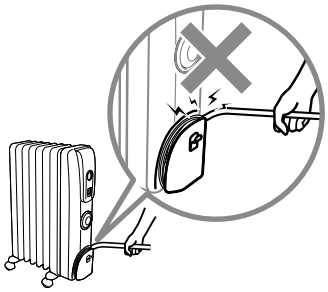
ご使用の前に

電源プラグ・コード、コンセントの定期点検

近年、「トラッキング現象」や「電源プラグとコンセントの接触不良」を原因とする火災事故が増加の傾向にあります。
製品を正しく、安全にお使いいただくために、下記に従って、電源プラグ、電源コード、および壁のコンセントを定期的に点検してください。

電源プラグ・コード、コンセントの安全チェックシート

チェックポイント		詳細説明
□ コンセントを他の機器と併用していませんか？		**定格15A（100V）の壁のコンセントをお使いください。コンセントが2口の場合は、片方を空けて単独でお使いください。** 他の器具と併用して容量がオーバーすると異常発熱し、火災の原因になります。
□ 延長コードやテーブルタップを使っていませんか？		**延長コードやテーブルタップなどは使用しないでください。電源は壁のコンセントから直接お取りください。** コンセントや電源プラグ/電源コードが異常発熱し、火災の原因になります。
□ 電源プラグやコンセントにホコリがついていませんか？		**付着したホコリは、掃除機などで定期的に取り除いてください。** 電源プラグと壁のコンセントの接触面にホコリが付着し、湿気が加わると、トラッキング現象が発生し、火災の原因になります。
□ 電源プラグ(刃)が変形していませんか？		**電源プラグ(刃)が変形した場合は、販売店または当社テクニカルセンターにプラグの交換をご依頼ください。** 曲がった刃は、接触不良時の発熱により、コンセントの刃受を変形させる原因になります。 (曲がった刃をペンチなどで手直ししないでください。)
□ コンセントにガタツキはありませんか？		**壁のコンセントにガタツキや緩みのある場合は、お近くの電気店に修理をご依頼ください。** 緩みのあるコンセントを使用すると、電源プラグ(刃)と十分な接触が得られず異常発熱し、火災の原因になります。
□ 電源コードに重い物が載っていませんか？		**電源コードに重いものを載せたり、壁に押し付けたりしないでください。** 電源コードに無理な力が加わると、電源コードが断線し、火災や感電の原因になります。

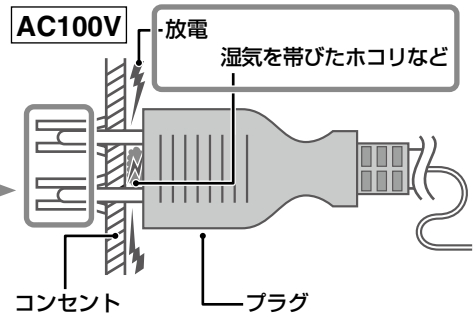
チェックポイント	詳細説明
□ 電源コードを束ねたり、コードホルダーに巻いたまま使っていませんか？ 	**余った電源コードは残さずコードホルダーから解き、伸ばしたままお使いください。** 電源コードを束ねたり、コードホルダーに巻いたままでお使いになると、異常発熱し、火災の原因になります。
□ 電源コードをコードホルダーに強く巻いていませんか？ 	**収納するときは、電源コードをコードホルダーに強く巻きつけないでください。** 電源コードを強く巻きつけると、コードの接続部が傷み、火災や感電の原因になります。

■ トラッキング現象とは

火災の原因となる自然現象です。コンセント周りにホコリが溜まると、そこに湿気が加わることで異常電流が流れやすくなります。異常電流が長い時間続くと、電源プラグやコンセントの表面が炭化し、最終的に放電現象と火災が発生します。これがトラッキング現象です。
トラッキング現象は、定期的なお手入れで防ぐことができます。（14ページ参照）

■ 電源プラグとコンセントの接触不良に注意しましょう

コンセントに電源プラグが根元までしっかり差し込まれていないと、刃受けとプラグの刃が不十分な接触のために、コンセントが発熱します。この状態のまま使用し続けるとコンセントやプラグが熱で変形･変質して、さらに発熱し、火災の原因になります。



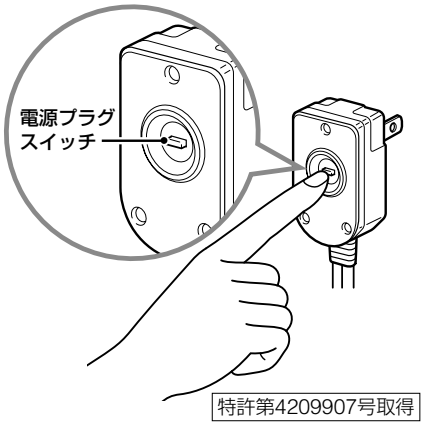
ご使用前に電源プラグをご確認ください

本製品の電源プラグは、復帰型温度過昇防止装置内蔵の安全プラグです。
復帰型温度過昇防止装置は、壁のコンセントの老朽化やガタツキによるプラグ部の発熱・発火事故を未然に防ぐために、電源プラグスイッチ周辺が異常過熱(約80℃以上)したときに本製品の電源を自動で切ります。

輸送時の環境により復帰型温度過昇防止装置が作動して、購入直後に本製品の電源が入らない場合がありますが、故障ではありません。

電源プラグをコンセントに差し込んだ後に、電力切替えスイッチの上部を押し込んでも電力レベルランプが点灯せず、本体も暖かくならないときは、電源プラグスイッチ(右図)をカチッと音がするまでプラグ内に押し込んでください。

- ご使用前（シーズンごと）に電源プラグスイッチがプラグ内に押し込まれているか確認してください。

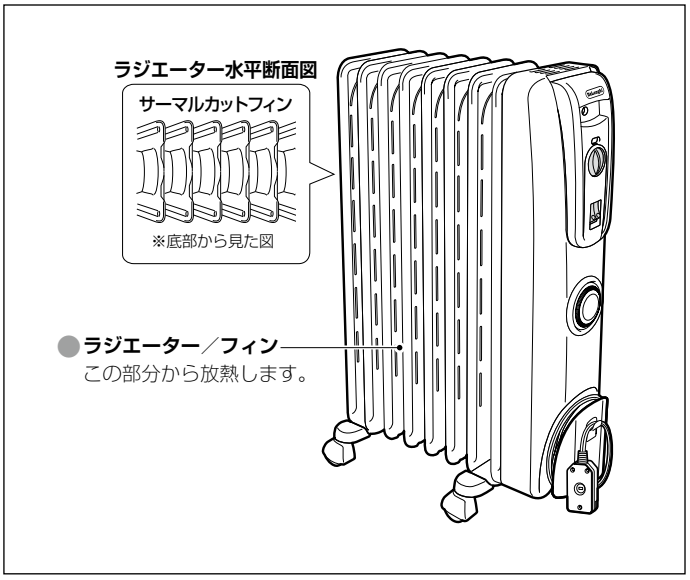


特許第4209907号取得

オイルヒーターについて

暖房のしくみ

ラジエーター内部に密封した難燃性オイルを本体の下部にある棒状の電気ヒーターで温めます。温められたオイルはパネル内を循環して、サーマルカットフィン（放熱板）から効率良く放熱された輻射熱と自然対流で室内を暖めます。



よくあるご質問(これは故障ではありません)

■使いはじめの臭いについて

使いはじめは新製品特有の臭いを感じることがあります。本体の耐熱塗装が熱になじむまで臭いを感じますが機能や安全性に問題はありません。しばらくお使いただくと臭いはおさまります。

■運転中にパチッパチッと音がする

電源を入れると、ラジエーター内部で天ぷらを揚げるような音がする場合があります。これは、外気との温度差によって生じた結露が熱くなったオイルに落ちたときの音です。異常ではありません。

■パネル内に青白い光が見える

周囲が暗いと、操作パネルの内部に青白い光が見えることがあります。これはサーモスタットや電子タイマーが、自動的に電源をオン／オフするときのもので、異常ではありません。

■タイマーについて（10～11ページ）

- **電源をオフしているときにもタイマーダイヤルが動いて小さな音がする**
  電源プラグをコンセントに差し込んでいる間、ダイヤルは24時間で1周する時計のような動作をします。
- **▲マーク近くでピンスイッチが動かしにくい**
  ▲周囲ではスイッチの構造上操作しにくいことがありますが、故障ではありません。▲から少しずれたところで操作してください。

設置する

ご購入後すぐに

必ずキャスターを開いて使用する
※ 設置前に必ず折りたたみ式キャスターを開いてください。（開き方については表紙参照）。

本機を移動するときは

本体の移動は、必ず本体が冷えてから行う

- 移動するときは取っ手に指をかけて、持ち上げずにゆっくりと引いてください。
- 階段や段差を移動するときは、本体底部を持って移動してください。
  ※ 持つときは必ず手袋などで手を保護してください。

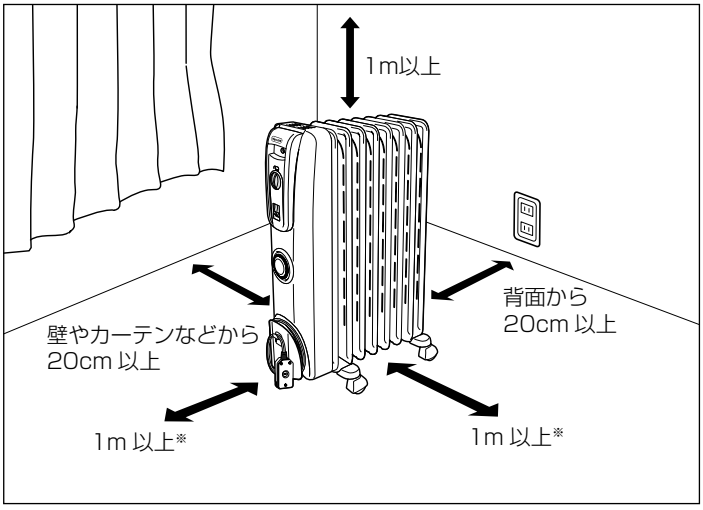
設置場所についてのご注意

壁や電源をとるコンセント、カーテンなどから20 cm以上離す
※ 材質によっては、本体の熱で変色／変質する恐れがあります。

テーブルや机の下で使わない
※ 本体の上部は燃えやすいものから1 m以上の距離を取ってください。上部をふさぐと空気の対流ができないため高温になります。

人やペットおよび家具などからは1 m以上離す
※ 寝室で使用するときは、寝起き時の転倒事故防止、寝具への接近を考慮して1 m以上の距離を取ってください。

毛足の長いじゅうたんや凸凹のある床は避けて、平らな場所に置く
※ 本体が倒れるとけがの原因になります。

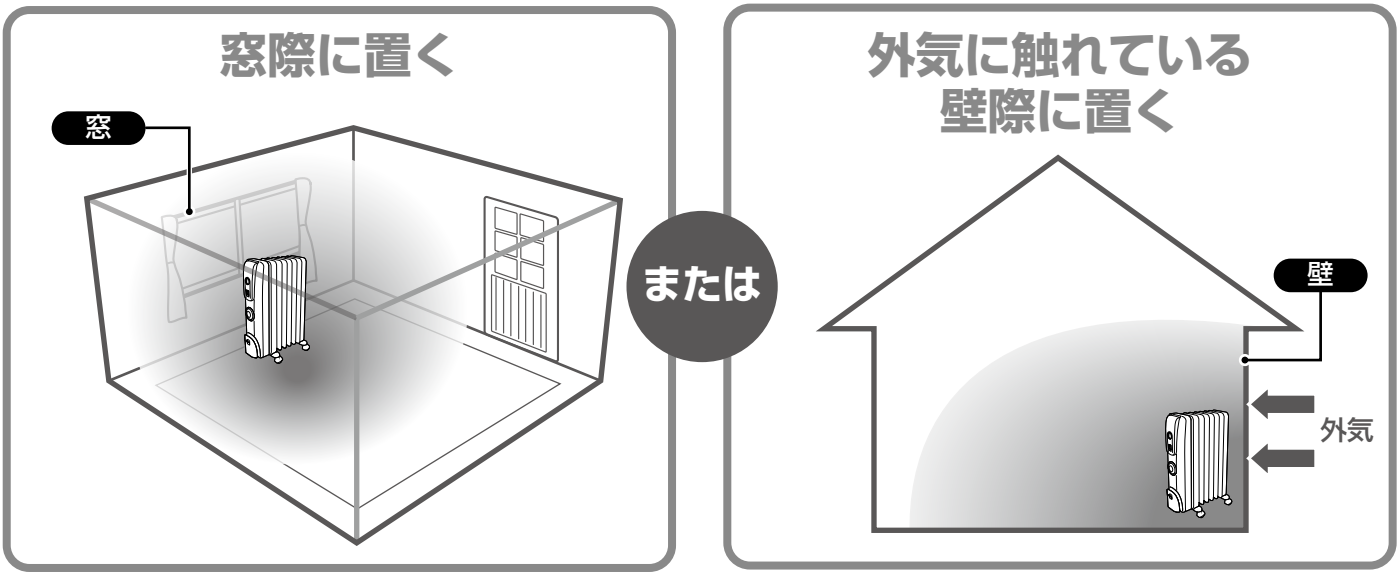


※寝室で使用する場合は、人や家具などから 1m 以上離してください。

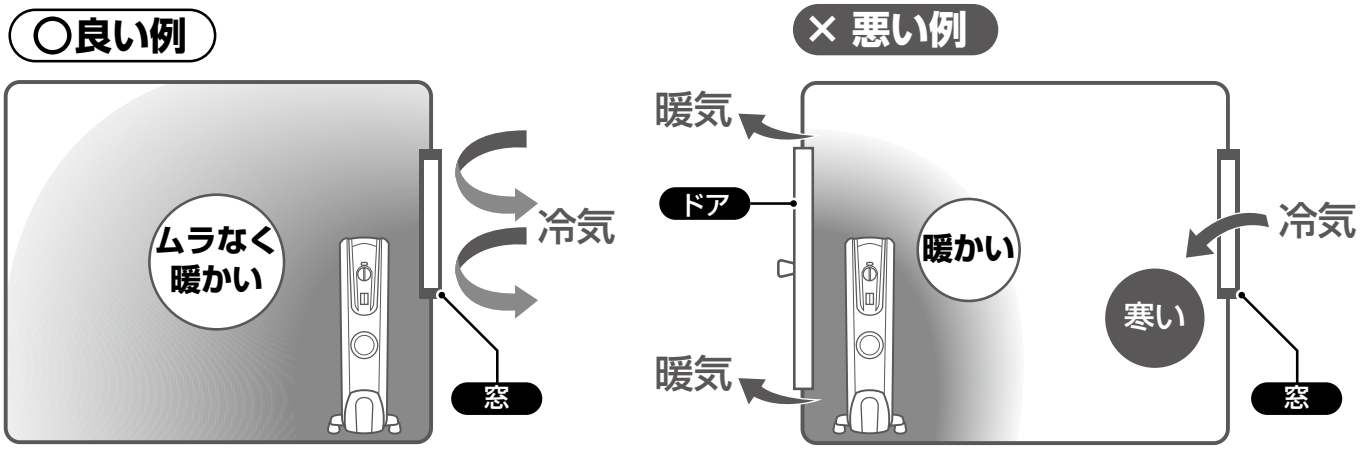
- ホットカーペットや床暖房の上で使用しないでください。サーモスタットが正しく働きません。

設置場所の工夫で効果的な暖房を

オイルヒーターの熱が、冷気の侵入をブロックすることでお部屋の暖房効果が高まります。
お部屋の中でも屋外からの冷気に影響されやすい、次のような場所に置いてください。



■設置場所の良い例と悪い例



- 窓際に置くとムラなく暖かい
- 冷気が侵入し温度ムラができやすい
- ドア付近に設置すると暖まった空気が室外に逃げやすい

■その他の工夫

窓からの冷気の侵入を防いでお部屋の断熱性を高めると、さらに暖房効率が上がります。

- 厚手で長めのカーテンを引く
- 窓に市販の断熱シートを貼る
- サッシに市販の断熱テープを貼る

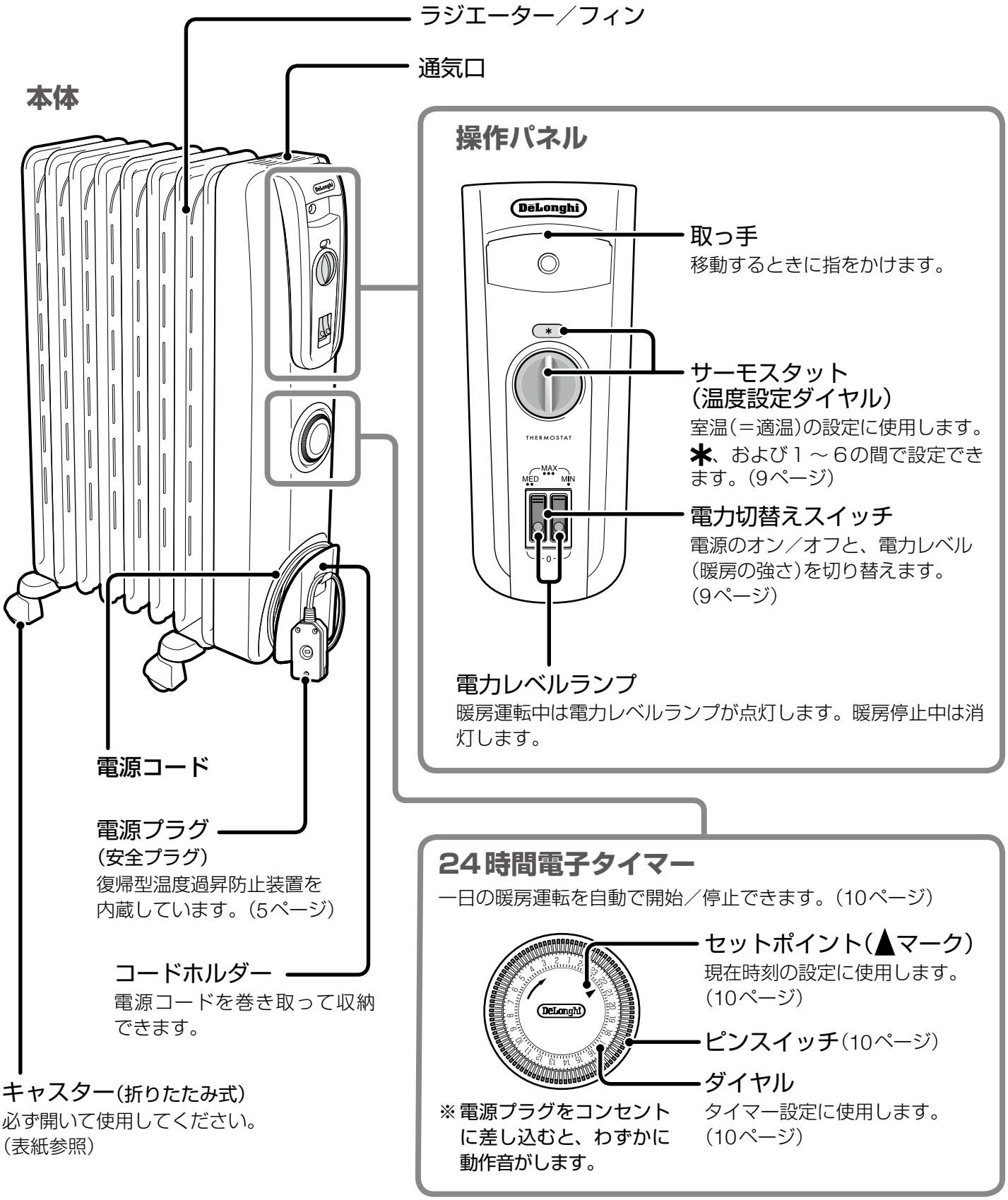
お知らせ

当社のWEBサイトでは、オイルヒーターをより効果的に使う方法や電気代の目安となるシミュレーションなどをご案内しています。

オイルヒーター特設サイト
http://oilheater.delonghi.co.jp/

各部の名称とはたらき

⚠ ご使用の前に各部の輸送用の粘着テープやシールを必ずはずしてください。



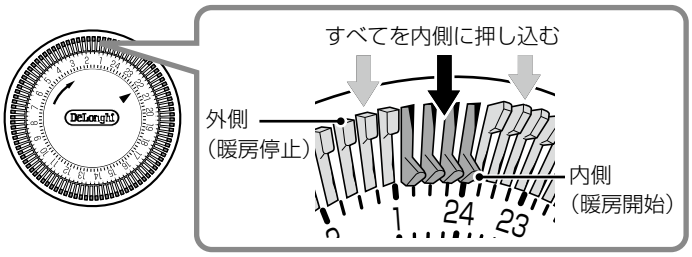
手動運転のしかた

暖房運転の開始と停止を手動で行う方法です。

1 準備

① 電源プラグをコンセントに差し込む

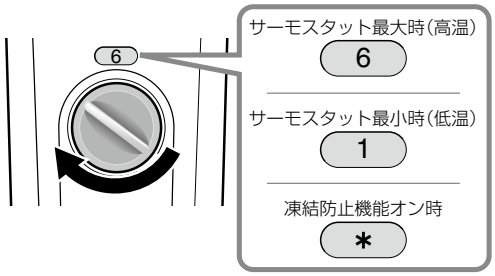
② タイマーのピンスイッチをすべて内側に押し込む



2 運転開始

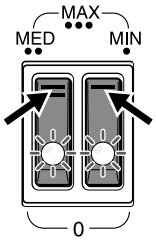
① サーモスタット（温度設定ダイヤル）を止まる位置まで時計回りに回して「最大（6）」に設定する

※ **凍結防止機能：**
サーモスタットを ✱ マークに合わせると、周囲の温度が約5℃以下にならないように自動で運転し、室温の下がりすぎを防ぎます。



② 電力切替えスイッチの上部を押し込んで電源をオンにする（電力レベルの設定）

● 電力レベルランプが点灯し、運転が開始します。



- MAX（強）：1200W
  左右両方のスイッチを押す
- MED（中）：700W
  左のスイッチだけを押す
- MIN（弱）：500W
  右のスイッチだけを押す

ヒント オイルヒーターは内部のオイルが温まりお部屋が快適な暖かさになるまでに、運転開始から30分～1時間程度かかります。そのため、運転開始時はオイルを早く温めるために電力レベルを「MAX（強）」で運転することがポイントです。

3 運転中（適温の設定）

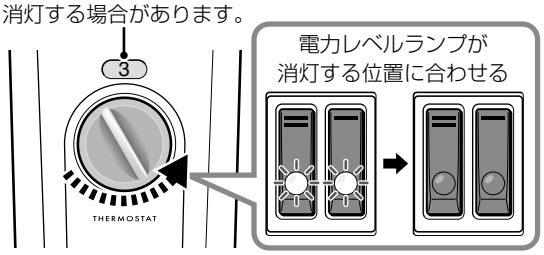
① お部屋が暖まったらサーモスタットをゆっくりと反時計回りに回して適温を設定する

● 電力レベルランプが「点灯」から「消灯」に変わる位置が適温です。

※ 設定した後は、適温を保つため、暖房運転の開始／停止（電力レベルランプの点灯／消灯）を自動で繰り返します。

※ 適温設定よりも暖かめにするには時計回り（数字を大きく）に、低めにするには反時計回り（数字を小さく）に回してください。

無段階設定のため、数字が表示されない位置で消灯する場合があります。



② 電力切替えスイッチを押して電力レベルを切り替える

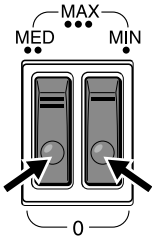
※ 電力レベルは「MAX（強）」、「MED（中）」、「MIN（弱）」の3段階に切り替えられます。お好みで使い分けてください。

ヒント オイルヒーターは部屋の床や壁をムラなく暖め、オイル自体の蓄熱性も高いので、長時間運転中は暖房設定を弱めに設定してもお部屋の快適さが保てます。

4 運転停止

電力切替えスイッチの下部を押し込んで電源をオフにする

● 電力レベルランプが消灯し、運転が停止します。



タイマー運転のしかた

タイマー機能を使って暖房運転を自動で開始／停止できます。朝起きる時間や帰宅する時間に合わせて、事前に室内を暖めておきたいときに便利です。また、自動で運転を停止するため消し忘れる心配がありません。

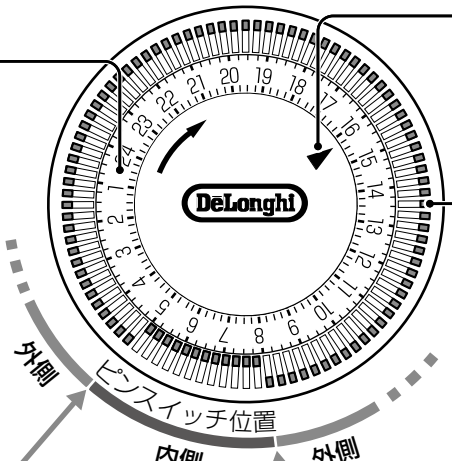
本機のタイマーは

- 暖房開始～停止時間を、15分刻みで自由に設定できます。
- 一度設定すれば、毎日同じ時刻に暖房運転を繰り返します。生活パターンに合わせて設定しておけば、1シーズン手間をかけずに本機をご使用いただけます。

タイマーのしくみ

ダイヤル

時刻目盛とピンスイッチ全体が、24 時間かけて一周する時計のようなしくみです。
現在時刻を合わせるときは、ダイヤルを時計回りに回します。
※反時計回りには回せません。

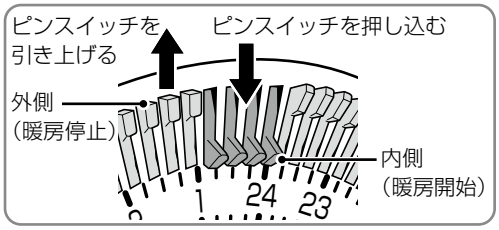


セットポイント(▲マーク)

タイマーを使用するときは、ダイヤルを時計回りに回して、現在時刻の目盛を▲マークに合わせます。

ピンスイッチ

ピンスイッチの位置(内側／外側)で、暖房を自動で開始／停止します。ピンスイッチ1個が15分間分です。



たとえばこんな使い方

- 朝起きる時間に合わせてお部屋を暖めておきたいとき
- 外出時間に暖房を停止したいとき

お知らせ

セットポイント（▲マーク）周辺にあるピンスイッチが、外側に引き上げられない場合があります。セットポイント（▲マーク）から離れた位置でピンスイッチを引き上げてください。

1 準備・現在時刻の設定

① 電源プラグをコンセントに差し込む

- タイマーのダイヤルが回り始めます。

② ダイヤルを時計回りに回して、現在時刻をセットポイント(▲マーク)に合わせる

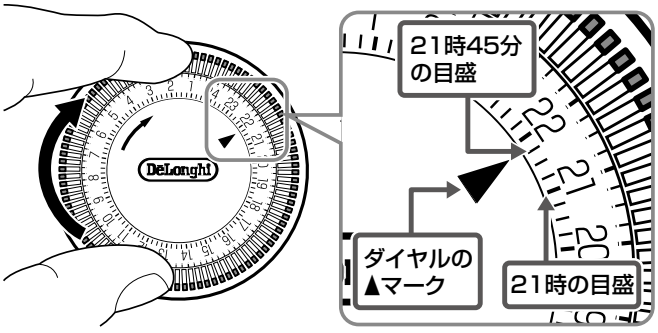
- **1目盛が15分**のため、現在時刻が毎時00分、15分、30分、45分のときにセットしてください。

お知らせ

- 電源プラグをコンセントから抜いた場合は、再度現在時刻を設定してください。
- ダイヤルを逆(反時計回り)に回さないでください。故障の原因になります。

現在時刻の設定例： 現在時刻が21時45分の場合

ダイヤルを時計回りに回す

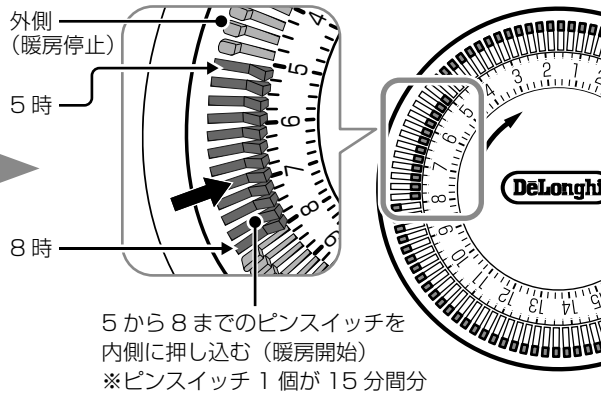


2 タイマー運転時刻の設定

ピンスイッチで暖房開始／停止の時刻を設定する

設定例： 5時に暖房開始、8時に暖房停止

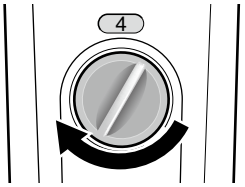
- 5から8までのピンスイッチ12個を内側に押し込みます。
- 暖房を停止したい時間は、ピンスイッチを外側に引き上げてください。



ヒント タイマー運転の暖房開始／停止の時刻は生活パターンに合わせて複数設定できます。

3 暖房運転の設定

① サーモスタット（温度設定ダイヤル）を適温に合わせておく



※ 適温の位置が分からない場合：
「手動運転のしかた」（9ページ）の「2 運転開始」と「3 運転中」を参照して適温を設定してください。

② 電力切替えスイッチで電源をオンにする（電力レベルの設定）

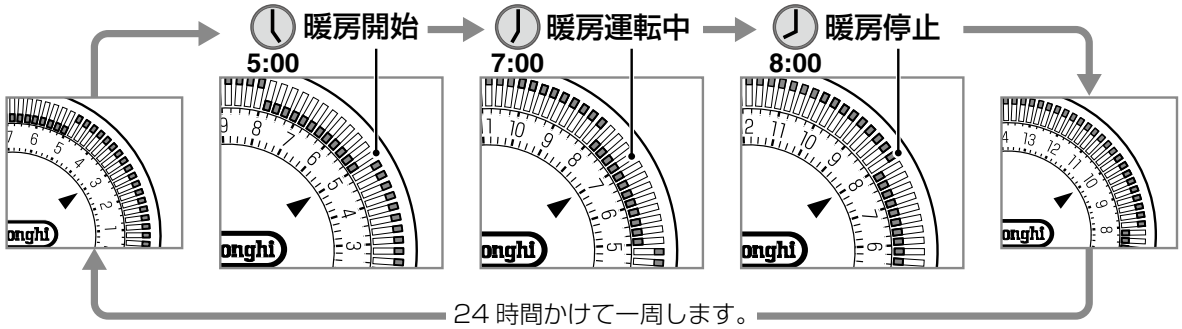
※ 操作について詳しくは、9ページの「2 運転開始」を参照してください。

節電のヒント 外出時や就寝中などはドアの開閉頻度が減るため、電力レベルが弱めでも十分な暖房効果を得られる場合があります。「MAX（強）」「MED（中）」「MIN（弱）」をお好みで使い分けてください。

これでタイマーの設定は完了です。設定を変更しない限り、毎日同じ時間帯に暖房運転を行います。

タイマー運転中の動作例（ダイヤルはゆっくり時計回りに回ります）

セットポイント（▲マーク）を通過するピンスイッチの位置（内側／外側）に従って、暖房運転を開始／停止します。
ここでは、5：00（暖房開始）～8：00（暖房停止）でタイマー設定している場合を例に説明しています。



■タイマーで開始した暖房運転を、一時的に休止したいとき：

電力切替えスイッチをすべてオフにする（電源オフ）

- タイマー設定とは関係なく、暖房を停止することができます。

※ タイマー運転を再開したいときは、電力切替えスイッチをオンにします。

■タイマーによる暖房運転／停止を、完全にやめたいとき：

ピンスイッチをすべて内側に押し込んで、手動運転に戻す（9ページ）

※ タイマー運転を再開したいときは、「2 タイマー運転時刻の設定」から再度設定します。

故障かな？

修理をご依頼いただく前に、以下の項目をご確認ください。それでも正常に動作しない場合は、お求めの販売店または当社テクニカルセンター（15ページ参照）までお問い合わせください。

暖房運転

症状 電力切替えスイッチをオンにしても電力レベルランプが点灯しない

チェック① 電源プラグがコンセントに確実に差し込まれていますか？

▼

電源プラグ（刃）をコンセントに根元までしっかりと差し込んでください。ガタツキのあるコンセントは使用しないでください。（4ページ）

チェック② 電源プラグの復帰型温度過昇防止装置が作動していませんか？

▼

輸送/保管時の環境により復帰型温度過昇防止装置が作動することがあります。（5ページ）
使用中に作動した場合は、電源プラグをコンセントから抜き、当社テクニカルセンターにご連絡ください。（15ページ）

チェック③ タイマーのセットポイント（▲マーク）周辺のピンスイッチが外側になっていませんか？

▼

タイマーのピンスイッチをすべて内側に押し込んでください。セットポイント（▲マーク）を通過するピンスイッチの位置（内側／外側）に従って、暖房運転を開始／停止します。（10ページ）

チェック④ サーモスタット（温度設定ダイヤル）の数字（1 ～ 6）が低すぎませんか？

▼

サーモスタットを電力レベルランプが点灯するまで時計回りに回してください。（9ページ）

症状 室内がなかなか暖かくならない

チェック① 運転を開始したばかりではありませんか？

▼

オイルが暖まるまでに約30分～ 1時間かかります。室内を暖めておきたい時間の1時間前に運転が始まるようにタイマーを設定しておくと便利です。（10ページ）

チェック② ドア（出入口）付近に設置していませんか？

▼

ドア（出入口）から離れた場所に設置してください。（7ページ）

チェック③ ホットカーペットや床暖房の上に設置していませんか？

▼

ホットカーペットや床暖房の上で使用しないでください。サーモスタットが正しく働きません。（6ページ）

チェック④ 電力切替えスイッチを「MIN（弱）」に設定していませんか？

▼

室外の気温が非常に低いなど部屋の環境によっては、「MIN（弱）」では暖まりにくい場合があります。電力レベルを強めに設定してください。（9ページ）

チェック⑤ サーモスタット（温度設定ダイヤル）の数字（1 ～ 6）が低すぎませんか？

▼

サーモスタットを電力レベルランプが点灯するまで時計回りに回してください。（9ページ）

タイマー運転

症状 タイマー設定した時刻になっても運転が開始しない

チェック① タイマーのセットポイント（▲マーク）が現在時刻を指していますか？

▼

現在時刻がずれていると、タイマー設定した時刻に運転が開始しません。再度、正しい現在時刻に合わせてください。（10ページ）

チェック② タイマー運転開始時刻のピンスイッチが外側になっていませんか？

▼

暖房したい時間帯のピンスイッチをすべて内側にしてください。（10ページ）

チェック③ 電力切替えスイッチ（左右両方）をオフにしていませんか？

▼

電力切替えスイッチは、電源スイッチも兼ねています。タイマー運転の前に、お好みの電力レベルになるように電力切替えスイッチをオンにしてください。（9ページ）

チェック④

サーモスタット(温度設定ダイヤル)の数字(1 ～ 6)が低すぎませんか？

▼

サーモスタットを電力レベルランプが点灯するまで時計回りに回してください。(9ページ)

症状　タイマー設定した時刻になっても運転が停止しない

チェック①

タイマーのセットポイント(▲マーク)が現在時刻を指していますか？

▼

現在時刻がずれていると、タイマー設定した時刻に運転が停止しません。再度、正しい現在時刻に合わせてください。(10ページ)

チェック②

タイマー運転開始時刻のピンスイッチが内側になっていませんか？

▼

暖房しない時間帯のピンスイッチをすべて外側にしてください。(10ページ)

本　体

症状　内部のオイルが漏れている

正常状態ではありませんので、直ちに使用を中止し、電源プラグをコンセントから抜いてください。

経年劣化などにより偶発的に発生した症状の可能性があります。
本体内部のオイルは難燃性で発火に至ることはありません。また、皮膚に触れても人体に重大な危険はありません。
万が一オイルが漏れた場合は、以下のとおりに対処してください。

- 漏れたオイルはタオルなどで拭き取ってください。
- 必要に応じて窓を開けるなどして室内を換気してください。
- オイルが皮膚に付着した場合は、ぬるま湯と石鹸で洗浄してください。
- 上記対処後、当社テクニカルセンター（15ページ）にご連絡ください。

電源プラグ

症状　電源プラグ・コードが異常に熱くなる

チェック

電源プラグ・コードは正しく接続されていますか？

▼

「電源プラグ・コード、コンセントの安全チェックシート」(4ページ)に従って、電源プラグ･コード、および壁のコンセントを点検してください。

これは故障ではありません

症状　使いはじめの臭い

使いはじめは新製品特有の臭いを感じることがあります。しばらくお使いいただくと臭いはおさまります。(6ページ)

症状　パチッパチッと音がする

外気との温度差によってラジエーター内部で発生した結露が熱くなったオイルに落ちたときの音です。異常ではありません。(6ページ)

症状　パネル内に青白い光が見える

周囲が暗いと、操作パネルの内部に青白い光が見えることがあります。異常ではありません。(6ページ)

症状　まれに「カンカン」や「キーン」といった金属音がする

本体が温まったり、冷めたりする際に発生する音です。異常ではありません。

症状　かすかに「ジー」や「ブーン」といった音がする

部品の動作音です。異常ではありません。

お手入れ／保管のしかた

- お手入れや保管をする場合は、必ず電源プラグをコンセントから抜き、本体が冷えてから行う
- 絶対に水に浸したり、水洗いをしない

お手入れ

定期的なお手入れ

- 本体および床や壁との隙間に溜まっているゴミやホコリは、掃除機などで必ず取り除いてください。
- 壁のコンセント（刃受）および電源プラグ（刃）に付着しているゴミやホコリは、定期的に掃除機などで必ず取り除いてください。トラッキング現象の防止となります。（5ページ）

本体が汚れたら

- 乾いた柔らかい布で拭いてください。汚れがひどい場合は、布にお湯を含ませ、硬く絞ってから拭いてください。

洗剤やクレンザー、シンナーやベンジン、金たわしなどは、使用しない

保管のしかた

① 保管前のお手入れ

このページの「お手入れ」に従って、本体の汚れやたまったホコリを取り除いてください。

② 電源コードの収納

保管する前に、電源コードをコードホルダー（8ページ）に**軽く巻いて**電源コードを収納してください。

電源コードをコードホルダーに強く巻かない（火災の原因）

③ 保管するときのご注意

- 湿気の少ない場所に保管してください。
- 箱に収納しない場合は、必ずキャスターを開いた状態で保管してください。

保管の際は、逆立てたり、横倒しにしたり、上に物を置かない

仕　様

型式番号		H770812EFSN
適用畳数		8畳まで
電圧／周波数		交流 100V ／ 50/60Hz
定格	強	1200 W
	中	700 W
	弱	500 W
外形寸法(約)		長さ 41.5 cm × 幅 24.5 cm × 高さ 63.0 cm
質量(約)		12.0 kg
フィン枚数		8枚
フィン形状		サーマルカットフィン
タイマー		24時間ON/OFF型電子タイマー
安全装置		転倒時自動電源遮断装置、温度過昇防止装置(本体内)、復帰型温度過昇防止装置(電源プラグ内)
原産国		中国

この製品は欧州RoHS指令に適合した製品です。
欧州RoHS指令とは、「電気・電子機器の特定有害物質の使用制限」を規定した欧州連合（EU）による指令です。
この製品は、鉛及びその化合物、水銀及びその化合物、六価クロム化合物、カドミウム及びその化合物、ポリブロモビフェニル（PBB）、ポリブロモジフェニルエーテル（PBDE）の含有率が、いずれも含有率基準値以下であり、環境に配慮して製造されました。

RoHS

アフターサービス

使用中に異常(★)が生じた場合：

直ちに電源を切り（＝運転中止)、電源プラグをコンセントから抜いてください。その後、「故障かな？」(12ページ)で調べても正常に機能しない場合は、お求めの販売店または当社テクニカルセンター（下記)にご相談ください。

★以下のような場合には、点検および修理が必要です

- 使用中、電源コードおよび電源プラグ、コンセントが異常に熱くなる
- 操作パネルや放熱板に、水などの液体をこぼした
- 電源コード、電源プラグが変形／破損している
- 本体に強い衝撃(転倒・落下)を与えた
- 取扱説明書どおりに使用しているのに、正常に機能しない

万一故障した場合：

保証書に記載されている販売店に、「① お買い上げ日」、「② 製品名称と型式番号」、「③ 故障の状況」をご連絡の上、修理をご依頼ください。

※宅配便等を利用して当社テクニカルセンター（下記）に直送される場合は、必ず故障の状況を記載したメモを同封くださるようお願いします。

※修理品の送付先については、お電話またはホームページ(下記)でご確認ください。

※保証規定については、保証書をご覧ください。

補修用性能部品の保有期間について：

当社では、このオイルヒーターの補修用性能部品について、最終輸入日を起点に６年間保有しております。

※補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

まごころ点検について：

長年ご使用のヒーターは、点検をお勧めします。

保証期間(３年)が過ぎて、少しでも気になる点がございましたら、安全のために専門技術者による点検(お預かり)をお勧めします。点検の依頼および料金等につきましては、当社テクニカルセンター（下記)にお問い合わせください。

デロンギ再資源化システムについて：

ご不要になった製品は、下記の要領に従い、当社テクニカルセンター（下記参照)までお送りください。
素材ごとに分別し、再資源化いたします。

- **送料について**：再資源化の費用は当社が負担いたしますが、送料はお客様のご負担（元払い）となります。予めご了承ください。
- **梱包について**：製品の入っていた箱(元箱)に入れてお送りください。元箱がない場合は、段ボール箱に入れるか、エアーパッキンにくるんでください。

※修理や点検と区別するため、外箱または送り状に、必ず「再資源化」と明記してください。

※送り先については、事前にお電話またはホームページ(下記)にてご確認ください。

以上、アフターサービスについてご不明な点がございましたら、販売店または当社テクニカルセンター（下記）にお問い合わせください。

デロンギ・ジャパン テクニカルセンター（受付時間：土、日、祝日を除く毎日9:30 ～ 17:00）

コールセンター　**Tel. 0120-804-280**　**Fax. 0120-956-020**

〒335-0033　埼玉県戸田市笹目北町13-13

ホームページでのお問い合わせ(URL).....http://www.delonghi.co.jp/support